

## 「日中植林・植樹国際連帯事業」中国メディア訪日団 参加者の感想（抜粋）

○ 今回、平安女学院大学の訪問・植樹活動、および京都市民防災センターの視察・体験活動に参加することができ、大変光栄に思っている。上記活動への参加によって、私は日本人が自然を友とし、自然と共生共存する先進的な自然観、そして人を根本とする理念、環境保護や防災の分野で大きな努力をしていることについて、より生き生きと、より深く理解することができた。私はこれまで植樹活動に参加したことはなく、中国国内にも市民防災センターのようなものはない。このような分野について、我々中国人も今すぐ行動を起こし、日本人から学ぶべきだと思う。中国に戻った後は、周囲の人や学生たちに積極的に伝え、より多くの人の環境保護や防災に関する意識を喚起したい。それによって我々中国の環境保護や防災の活動をよりよいものになりたいと考えている。また、今回の行程では、中日メディア対話会もとても意義深いものだったと思っている。私は中国メディアの受け手であり、日本メディアの受け手でもある。このような活動は数回行っただけでは目立った成果をあげられないと思う。しかし、十数回、数十回と続けて行けば、間違いなく中日両国民の相互理解や相互信頼を促進させ、中日関係の長期的な発展に役立つと思う。我々両国民は共に手を携え、中日両国民の子々孫々の友好というスローガンを唱え続け、引き続き行動に移していかなければならない。

○ 率直な交流はとても重要だ。政治体制、価値観等の面で違いは存在しているものの、それは双方の交流に影響を及ぼすものではない。日本側の交流メンバーにおかれては、一般的な中国人の考え、日本という国や国民に対する考えをもっと理解してもらいたい。もちろん、「気に入らない」点も多々あるだろうが、双方が率直かつ誠実に交流できることを願っている。「本音は危険」と言われるが、本音を語れば「酒を飲みながら」話すこともでき、友人になれる。これも悪くないと思う。

メディアについて言えば、日本のメディア関係者と中国のメディア関係者の交流がさらに増えることを願っている。さらに、その交流が「意味のある」交流になってほしい。中国人は日本から数多くのことを学んだ。それどころか、今もまだ学び続けている。例えば精緻化された都市管理、高齢者福祉、防災等だ。「相違点を尊重しながらも共通点を探る」ことで、私たちが実務的な分野で両国国民に有益なことをできれば幸いである。ソリューションジャーナリズムを提唱し、無意味な情報拡散ではなく、「ソリューション」をもたらす報道を行いたい。中日友好のために共に努力したい。

○ 平安女学院大学で小川治兵衛氏が紅梅を中日友好植樹活動の木に選んでくれたことに感謝する。紅梅は真冬の厳しい寒さの中でも立ち続け、最も寒い時に満開になる。紅梅が満開になることは、春の訪れ、大地の復活をも意味している。中日関係も紅梅のようになってもらいたい。活動は厳かな雰囲気にもまれ、とても意義深く、素晴らしかったと思う。

○ 中国メディア訪日団として日本経済新聞社を見学でき、とても嬉しかった。メディアの営業メカニズム、生産・経営状況、さらには新たな時代の課題にどうやって立ち向かっていくべきかを深く理解することができ、収穫がとても多かった。メディアとしての日本経済新聞は独自の品格、規律制度を持ち、公平中立であり、心から尊敬に値すると思った。

日本の同業メディアとの対話会では、比較的激しい議論が交わされたが、素晴らしかったと思う。両国の体制やルールは異なっており、報道要件も違うが、私たちは共に互いに注目しており、対話交流を望んでいる。コミュニケーションをとれるか否かがとても重要である。利益の衝突や摩擦が生じた時は尚更である。私たちメディアはこのような共通した役割を担わなければならない。やや残念に感じたこと、または次回以降に改善できるのではないかと感じたこともある。それは、今後、テーマを設けた討論を行えないかということだ。同じ事件

の具体的な報道の方向性、方法、展開について、対話を行い、それぞれが自分の主張を一方向的に述べるのではなく、同じレベルで意見を交わすようにするのだ。もしくは、相手メディアに対し、自分たちがどのようなトピックについて話し合うのか、どのようなトピックについて興味があるのか事前に伝え、それから深みのある交流をしても構わないと思う。そうすれば交流の効率、深み、幅のいずれもが向上することだろう。

○ まず、日本の関連主催団体、活動に参加された方々、さらに全行程で同行してくれたスタッフ、全員がとてもプロフェッショナルで真面目な態度だった。このことはとても印象深く、感謝の意を表したい。我々中国人が見習わなければならない点である。

次に、今回の具体的な内容についてだが、全プログラムで大きな収穫があった。日中メディア対話会、交流、訪問、どれもが大変素晴らしいものだった。時間の関係で、交流や訪問のいくつかは内容を十分に深めることはできなかったが、全体的には予想以上の収穫を得ることができた。

私自身の最大の収穫は、ニュース情報に対し、いかにしてより偽りなく向き合うか、圧力に屈することなく客観的かつ公平中立な報道をするかについて、日本の同業者から学べたことだ。また、防災知識に関する研修、体験を通じ、今後の生活で遭遇する可能性のある災害への対策という得難い経験を積むことができた。最後に、改めて感謝申し上げる。